

Apple Configurator 2.13による Manual ADE利用手順

KDDI株式会社

2021年4月21日



- ユーザー側で販売チャネルを通さずに、手元にあるiOS 端末をADE監視対象端末として登録することができます。
- 従来は販売チャネルを通じて購入したADE端末のみADE登録が可能でしたが、ADE対象ではないiOS/iPadOS端末をApple Configurator 2を利用して簡単にADE監視対象端末にすることができます。

※ADE : Automated Device Enrollment

※旧称 : DEP(Device Enrollment Program)

※Apple Configurator 2、ASM (Apple School Manager) およびABM (Apple Business Manager) の画面や操作の詳細については、Appleにお問い合わせください。

- iOS11以降またはiPadOS 13以降
 - ※監視対象にする必要があります。
 - ※Manual ADE設定時に端末が初期化されます。(内部のデータの持ち越しは行えません)
- Apple Configurator 2.13以降 (最新版)(以降AC2)
- macOS Sierra 10.12.5以降
- ASM (Apple School Manager) またはABM (Apple Business Manager)
 - ※あらかじめASM/ABMの利用登録が完了している必要があります。
 - ※二要素認証が発生するため、操作は管理者が行うことを推奨します。

□ デバイス割当先のMDM (本資料ではKDDI Smart Mobile Safety Manager)

※あらかじめMDMとしての各種基本設定が完了済みであること (APNs登録、ADEトークン登録など)

1. ADE構成が、AC2からASMまたはABMにアップロードされます。
「"Apple Configurator 2から追加されたデバイス"」という名前のADE（一時MDMインスタンス）を作り、端末がADE登録されます。
※この状態の間は、端末を初期化（リセット）してもMDMへ再登録されません。
2. MDM登録を強制したい場合は、ASMまたはABMにて“AC2から追加されたデバイス”に登録した端末をMDMに割り当て直す必要があります。



- AC2でADE認証した端末は、30日間のみ端末所有ユーザの意思でリモートマネジメントから離れることができます。
 - 設定 > デバイス管理 > プロファイル > “リモートマネージメントから離れる”
- ※「セットアップアシスタント」、「ロック画面」にも表示されます。
- ※“リモートマネージメントから離れる”を実行すると端末は強制的に初期化（リセット）され、**管理から外れてしまうので、“リモートマネージメントから離れる”は、タップしないでください。**
- “リモートマネージメントから離れる”を実行した場合や、ASMまたはABMから「所有解除」（リリース）を実施したあとも、Manual ADEの手順を再度行くと、ASMまたはABMに登録することができます。



セットアップアシスタント

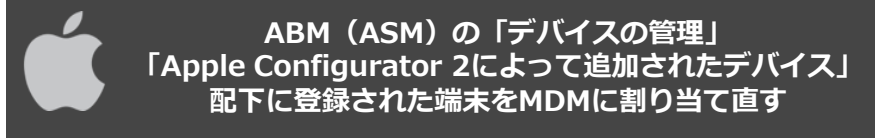


ロック画面



作業フロー

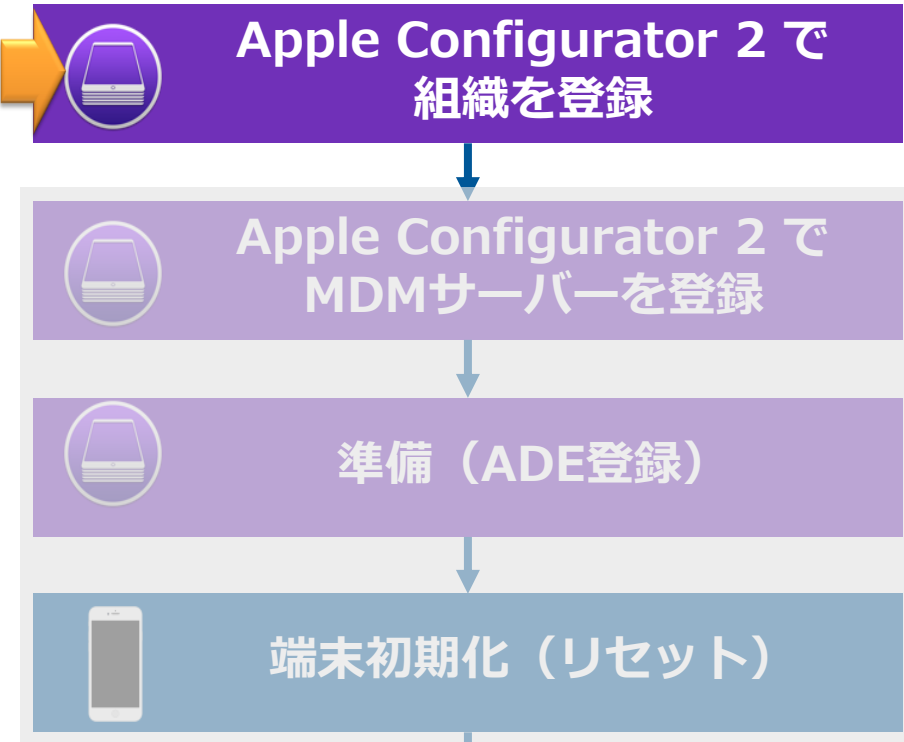
あらかじめMDMの初期設定は完了している前提です。
※APNS登録、ADEトークン登録、組織作成、構成プロファイル設定、アプリ配信設定など



作業手順

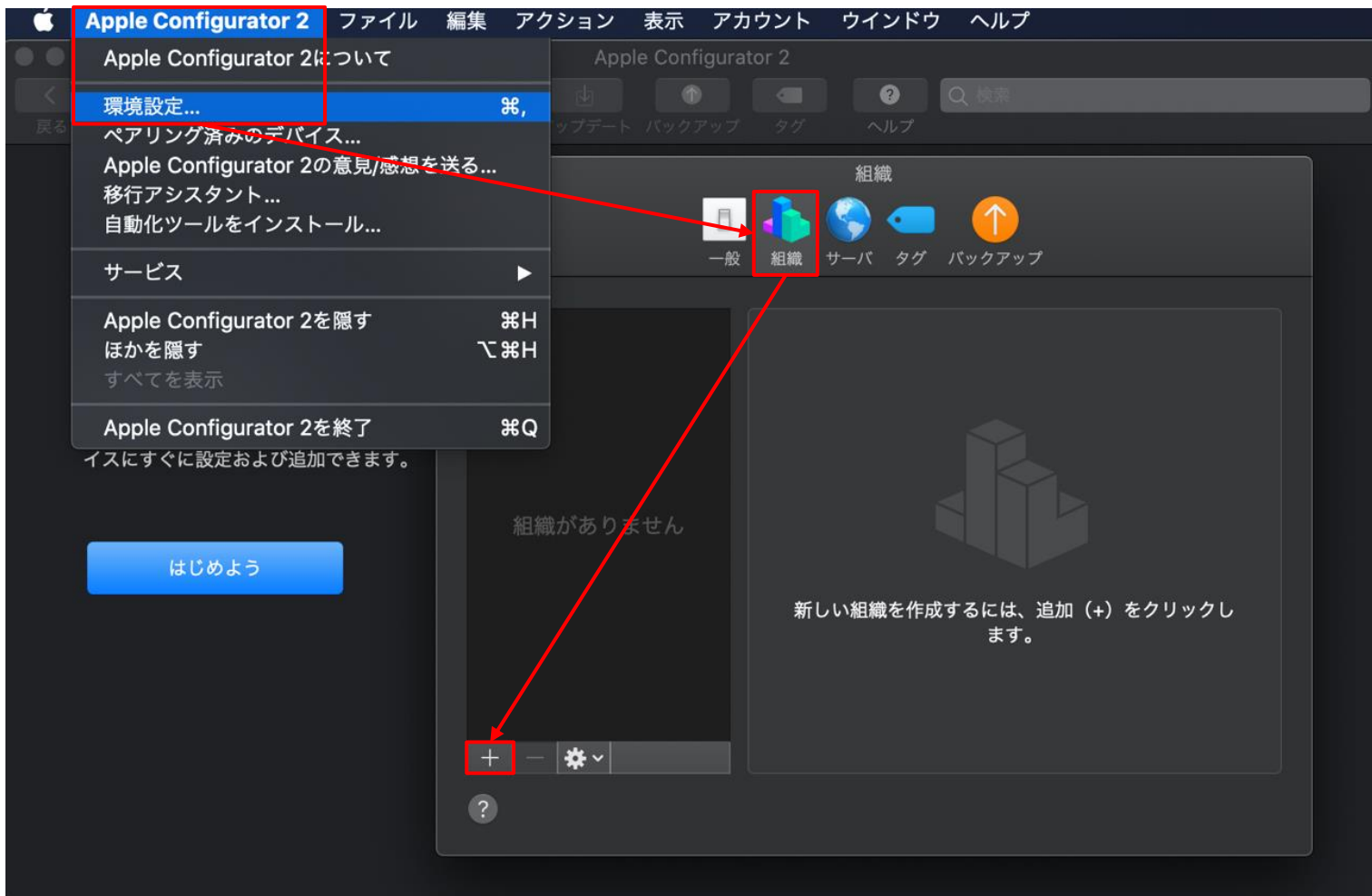
作業フロー

あらかじめMDMの初期設定は完了している前提です。
※APNS登録、 ADEトークン登録、 組織作成、 構成プロファイル設定、 アプリ配信設定など



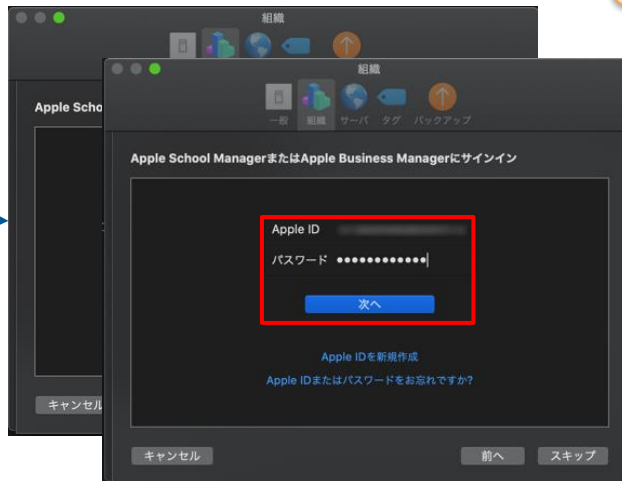
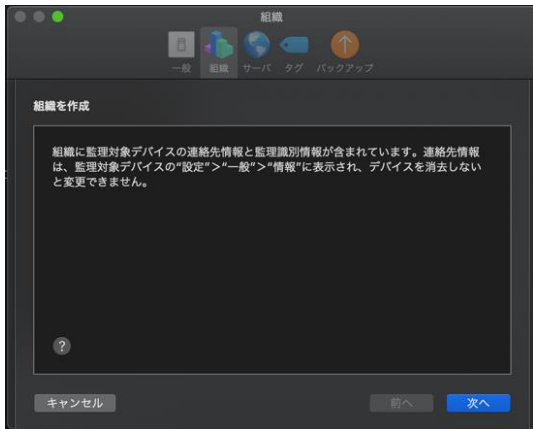
AC2に組織を登録する（1/2）

- Apple Configurator 2 > 環境設定 > 組織の、+（プラス）をクリックします。

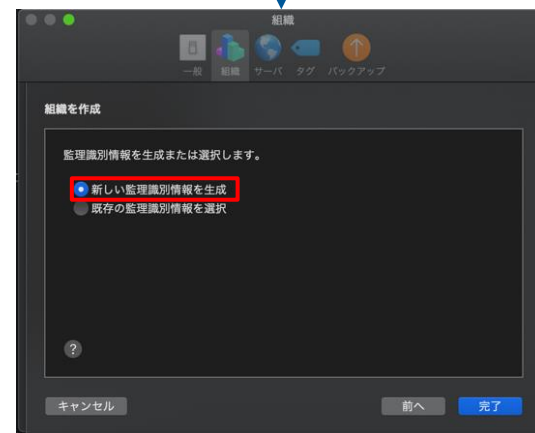
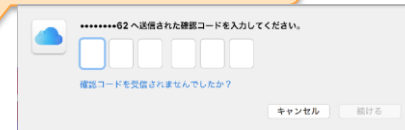


AC2に組織を登録する (2/2)

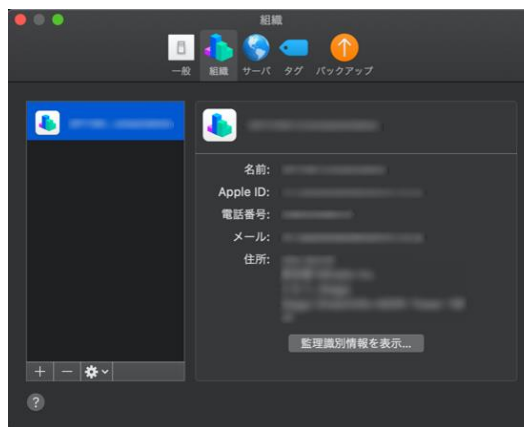
※ABM/ASMにログインするので
パスコード認証が発生します。



Apple ID/PWを入力します。



入力は任意です。
※ただし、端末に表示される箇所があるので、
注意してください。



あらかじめMDMの初期設定は完了している前提です。
※APNS登録、 ADEトークン登録、組織作成、構成プロファイル設定、アプリ配信設定など

Apple Configurator 2 で
組織を登録

Apple Configurator 2 で
MDMサーバーを登録

準備 (ADE登録)

端末初期化 (リセット)

ABM (ASM) の「デバイスの管理」
「Apple Configurator 2によって追加されたデバイス」
配下に登録された端末をMDMに割り当て直す

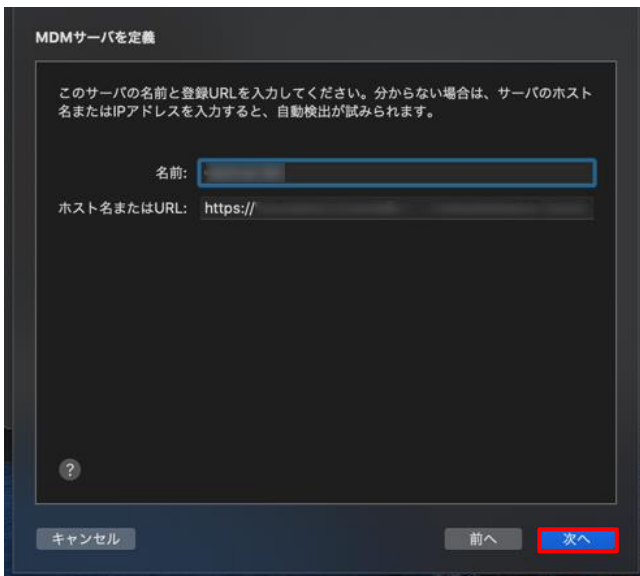
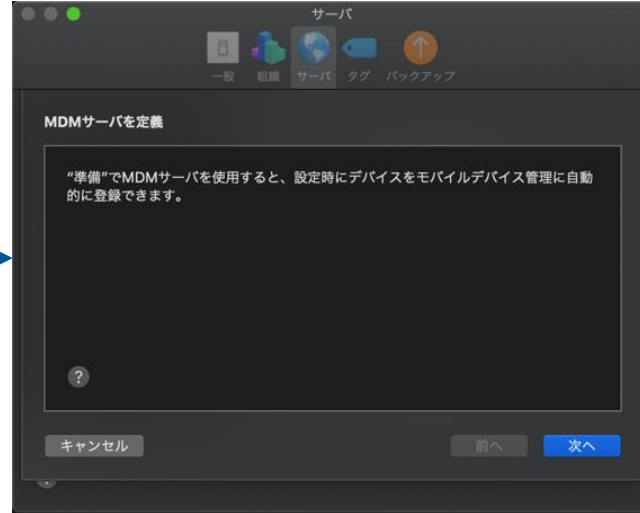
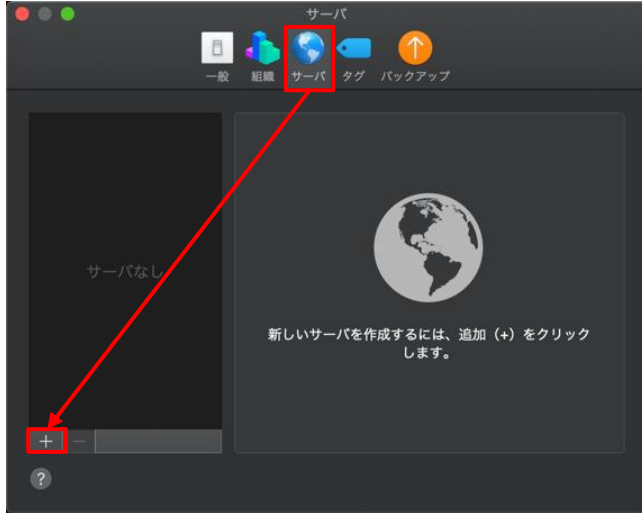
ADE機器管理画面
確認

端末のADE定義プロファイルを設定
(端末を組織またはユーザーに紐付ける)

端末初期化 (リセット)

エージェントの
インストールと認証

2. AC2にMDMサーバーを登録する (1/2)

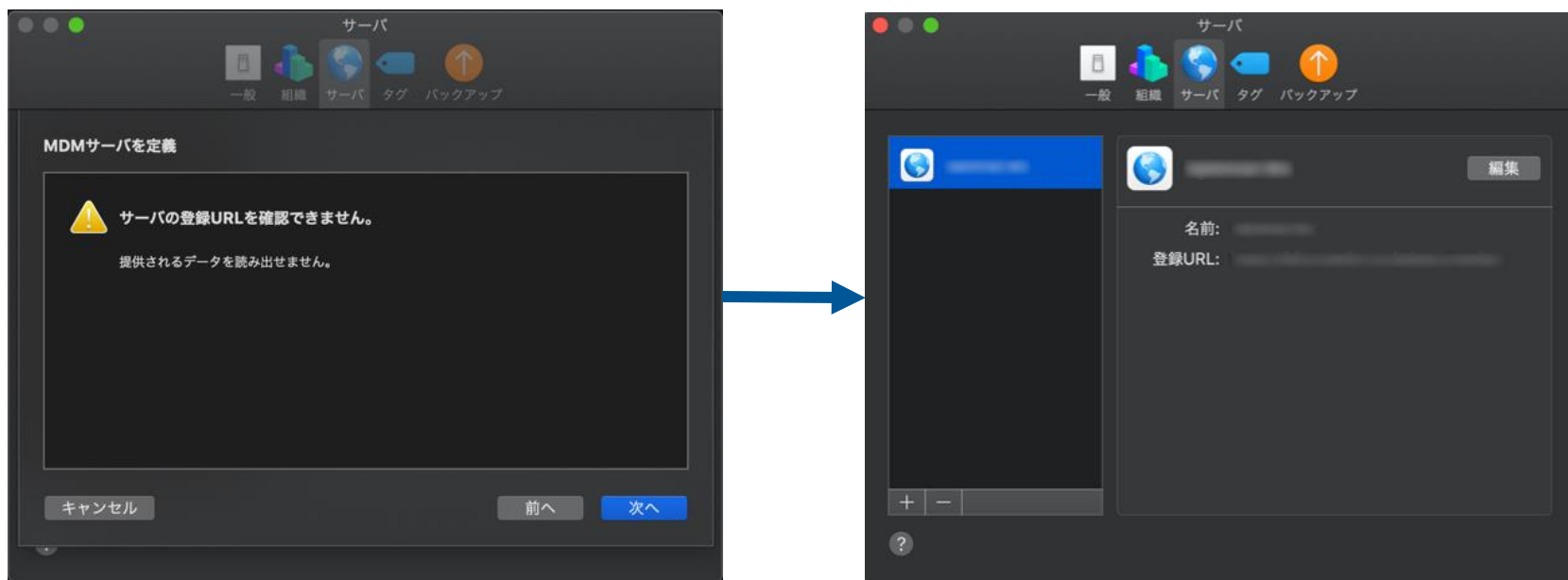


名前：MDMサーバー名（任意の名称）

URL：https://ausl.smartmanager.jp/**企業コード**/setup/ios/dep_enroll?auth_code=**認証コード**

2. AC2にMDMサーバーを登録する（2/2）

- 前ページでMDMサーバーの情報を入力して「次へ」をクリックしたあと、以下の警告画面が表示されることがあります。
入力値に間違いがないことを確認したら、そのまま「次へ」をクリックします。



登録されていればOK、
あとから修正も可能です。

あらかじめMDMの初期設定は完了している前提です。
※APNS登録、 ADEトークン登録、 組織作成、 構成プロファイル設定、 アプリ配信設定など



Apple Configurator 2 で
組織を登録



Apple Configurator 2 で
MDMサーバーを登録



準備 (ADE登録)



端末初期化 (リセット)



ABM (ASM) の「デバイスの管理」
「Apple Configurator 2によって追加されたデバイス」
配下に登録された端末をMDMに割り当て直す



ADE機器管理画面
確認



端末のADE定義プロファイルを設定
(端末を組織またはユーザーに紐付ける)



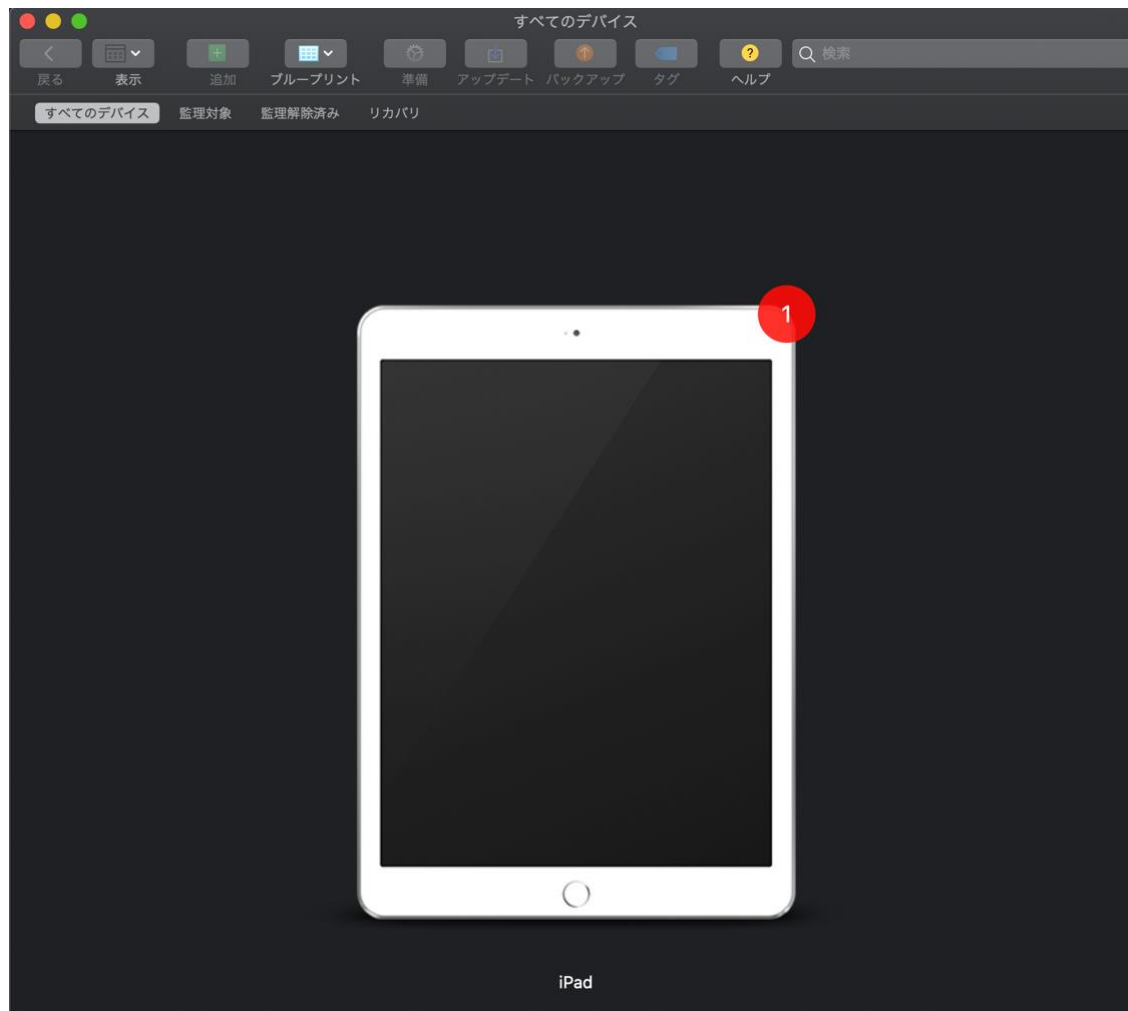
端末初期化 (リセット)



エージェントの
インストールと認証

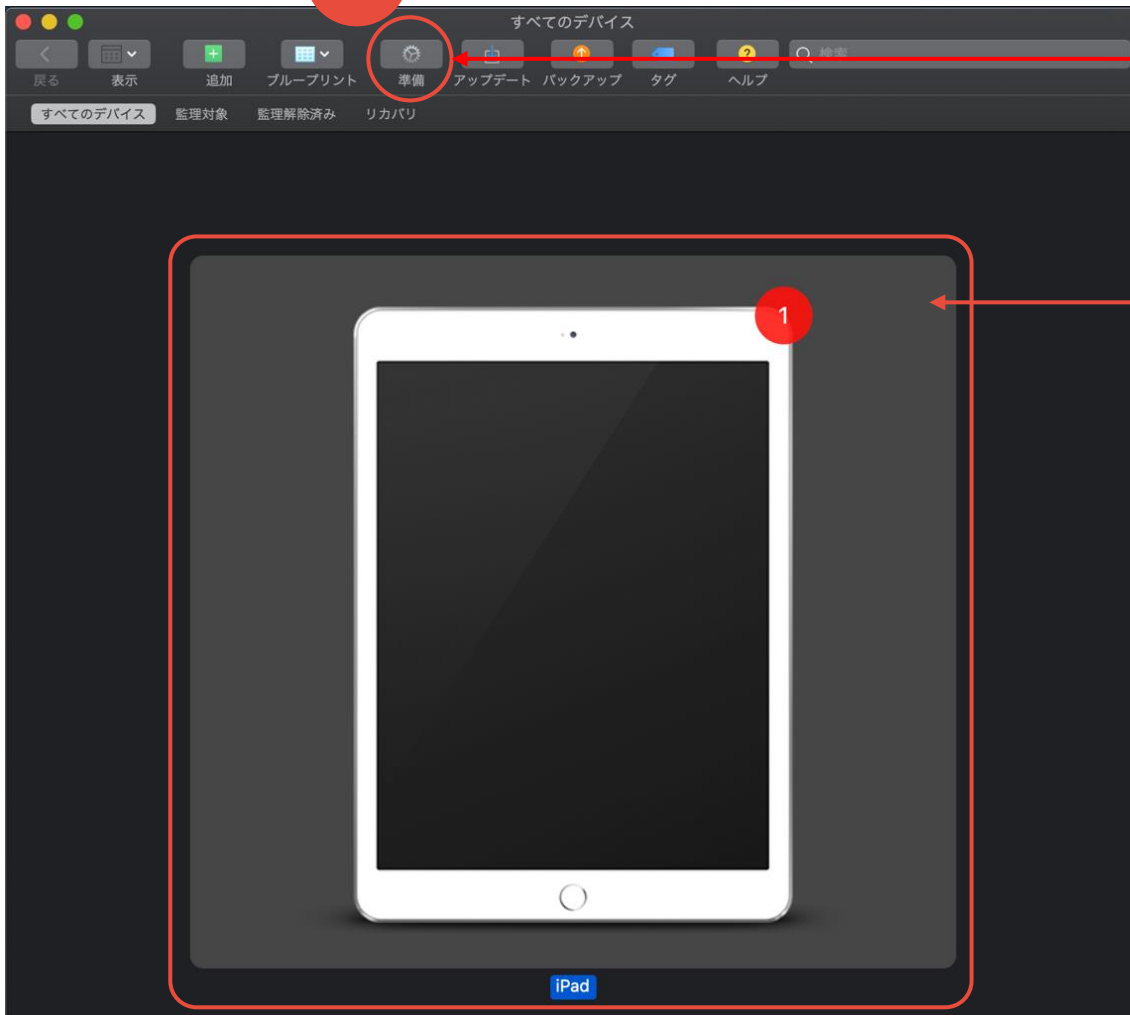
準備・初期化（1/6）

- ① Apple Configurator 2を起動します。
- ② 対象の端末を接続します。



準備・初期化 (2/6)

2



1 対象の端末を選択します。

2 [準備]をクリックします。

デバイスを準備

デバイスの準備は配布の第一歩です。デバイスをユーザに配布する前に準備する必要があります。

準備方法: **手動構成**

- Apple School ManagerまたはApple Business Managerに追加
- アクティベートして登録を完了
- デバイスを監理
- デバイスにほかのコンピュータとのペアリングを許可
- 共有iPadを有効にする

キャンセル 前へ 次へ

3

[手動構成]を選択します。

4

「Apple School ManagerまたはApple Business Manager」にチェックを入れます。

5

以下にチェックが入っているか確認します。

- ・ アクティベートして登録を完了
- ・ デバイスに他のコンピュータとのペアリングを許可

MDMサーバに登録

必要に応じて、デバイスを無線でリモート管理するMDMサーバを選択します。

サーバ:

?

キャンセル 前へ 次へ

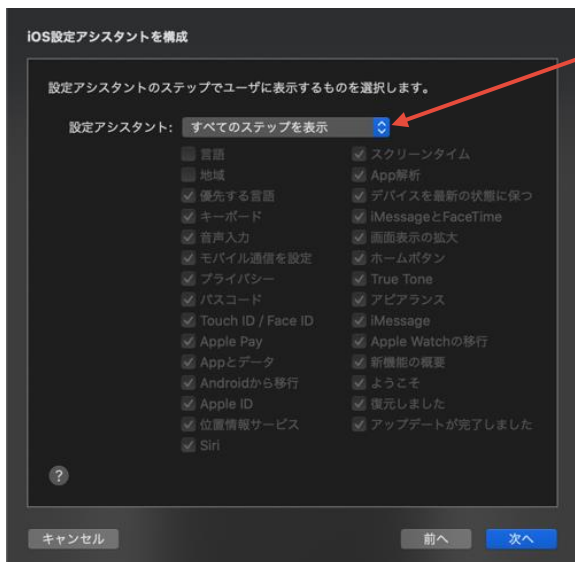
6

先程作成したMDMサーバを選択します。



7

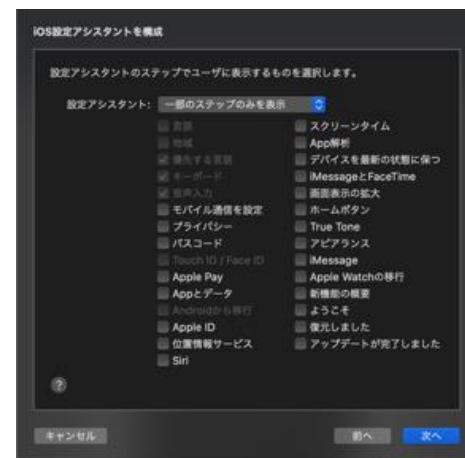
本手順内で作成した組織を選択します。



8

初期起動時に表示される設定アシスタントの表示/非表示を選択します。

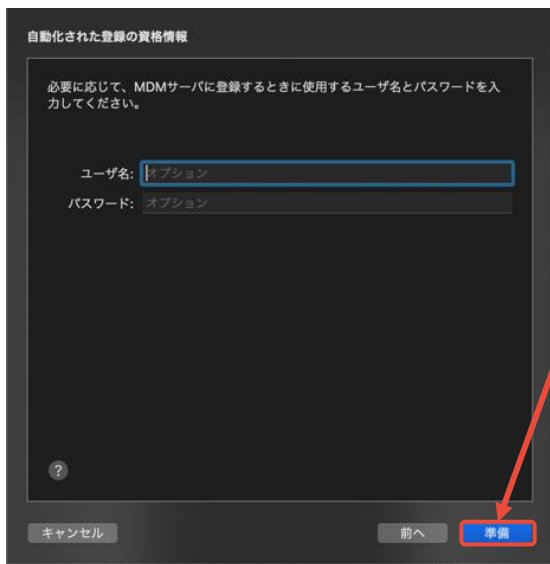
「一部のステップのみ表示」を選択した場合は、表示されている項目を有効または無効にできます。





9

ネットワークプロファイルを選択します。
特になければ、「なし」のまま次へ

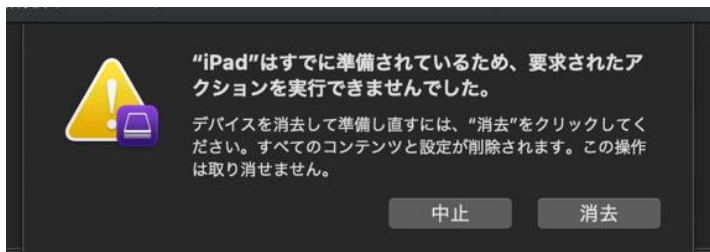


10

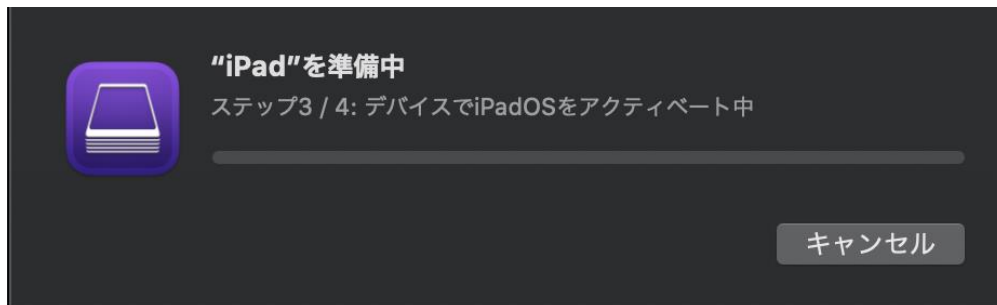
特になければ、「なし」のまま「準備」ボタンをクリックします。

端末の初期化（リセット）が開始します。
初期化が終了したあと、端末がWi-Fiモデルの場合は、
Wi-Fi接続を行っておく必要があります。

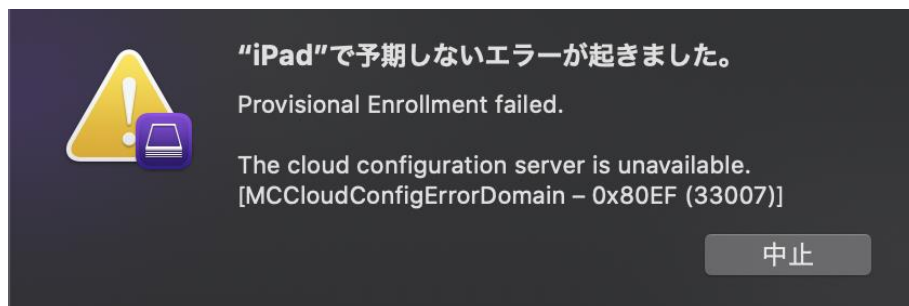
「準備」ボタンをクリックしたあと、以下の画面が表示される場合は、「消去」を選択します。



「準備」ボタンをクリックした あとの注意事項



「準備」ボタンをクリックすると、左の画面がAC2に表示されます。しかし、端末がネットワークに接続されていない場合は、エラー画面が表示されることがあります。



この場合は、「中止」をクリックしてから、再度「準備」ボタンをクリックして、上記の画面の間に端末のネットワーク(Wi-Fi)設定を行ってください。

12 端末を初期化（リセット）します。



ADEへ追加完了

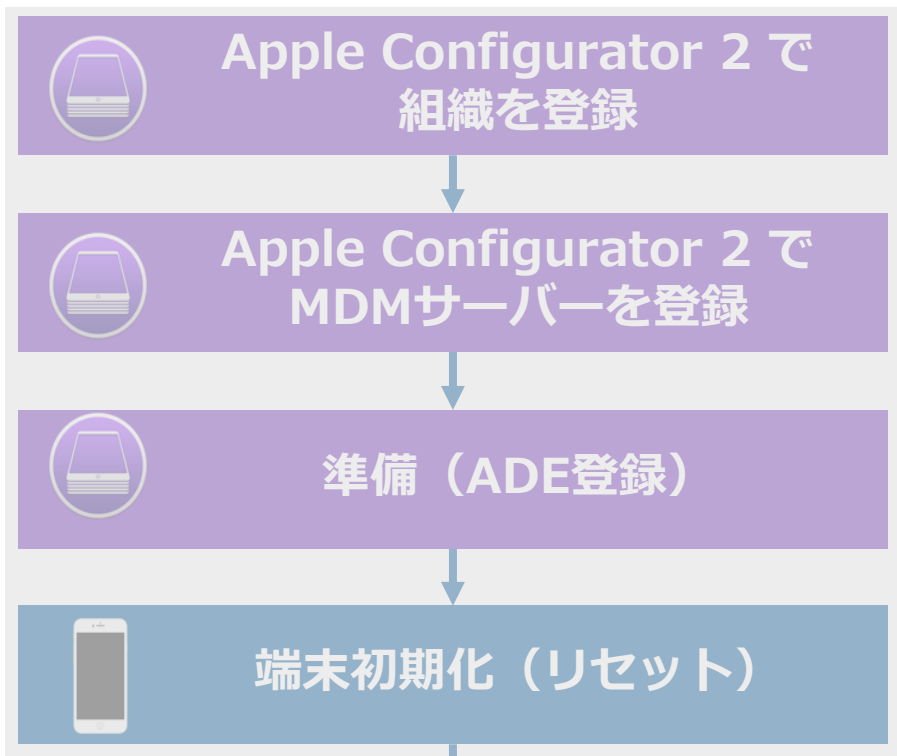
ここ（ホームボタンをタップして国を選択する前）で、端末を放置すると、AC2でエラーになるケースがあります。特に初回の進捗はこまめに確認することをおすすめします。

※設定アシスタント（セットアップアシスタント）の設定によって、必要な操作（ステップ）は異なります。

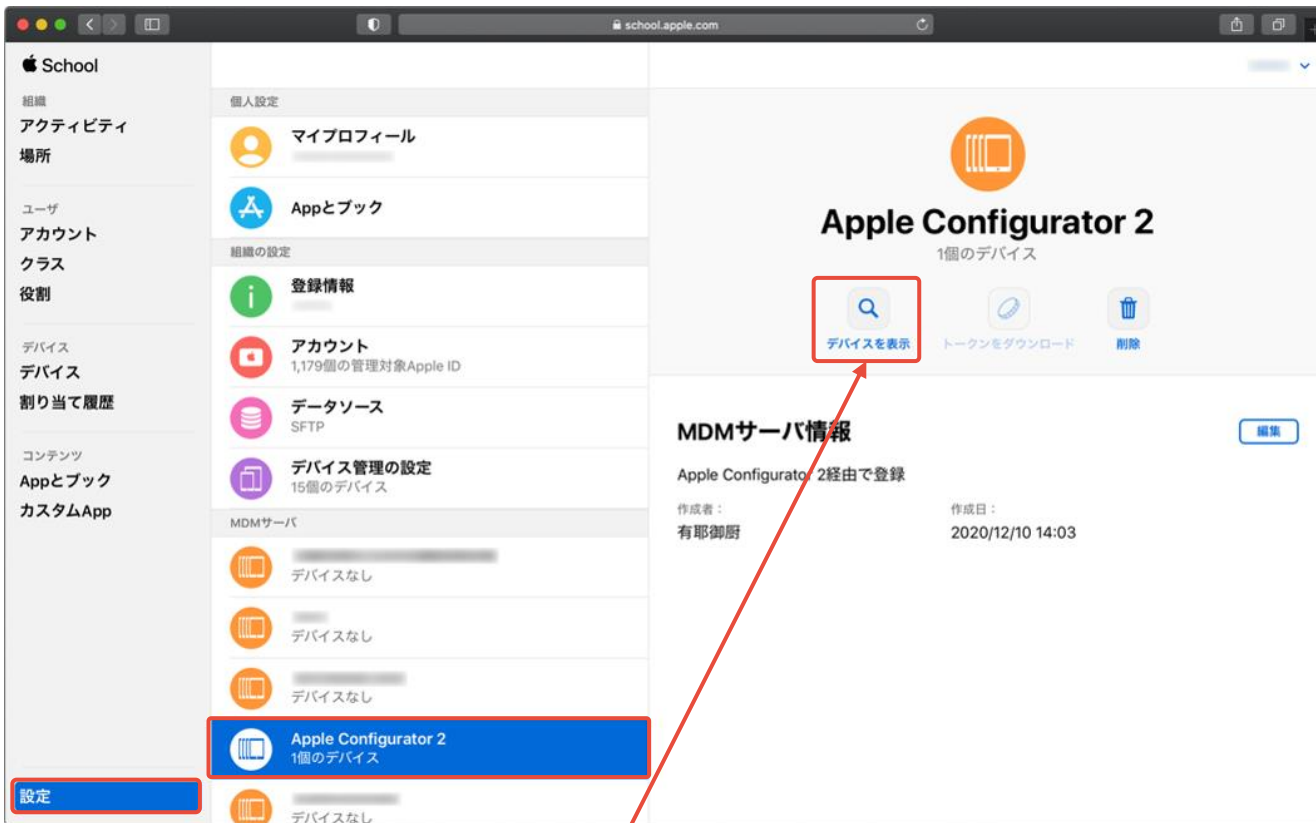
※アクティベーションロックは事前に外しておく必要があります。アクティベーションロックの解除方法は、以下を参照してください。

<https://support.apple.com/ja-jp/HT201441>

あらかじめMDMの初期設定は完了している前提です。
※APNS登録、 ADEトークン登録、 組織作成、 構成プロファイル設定、 アプリ配信設定など



【ASMの場合】



1 登録された端末情報を表示

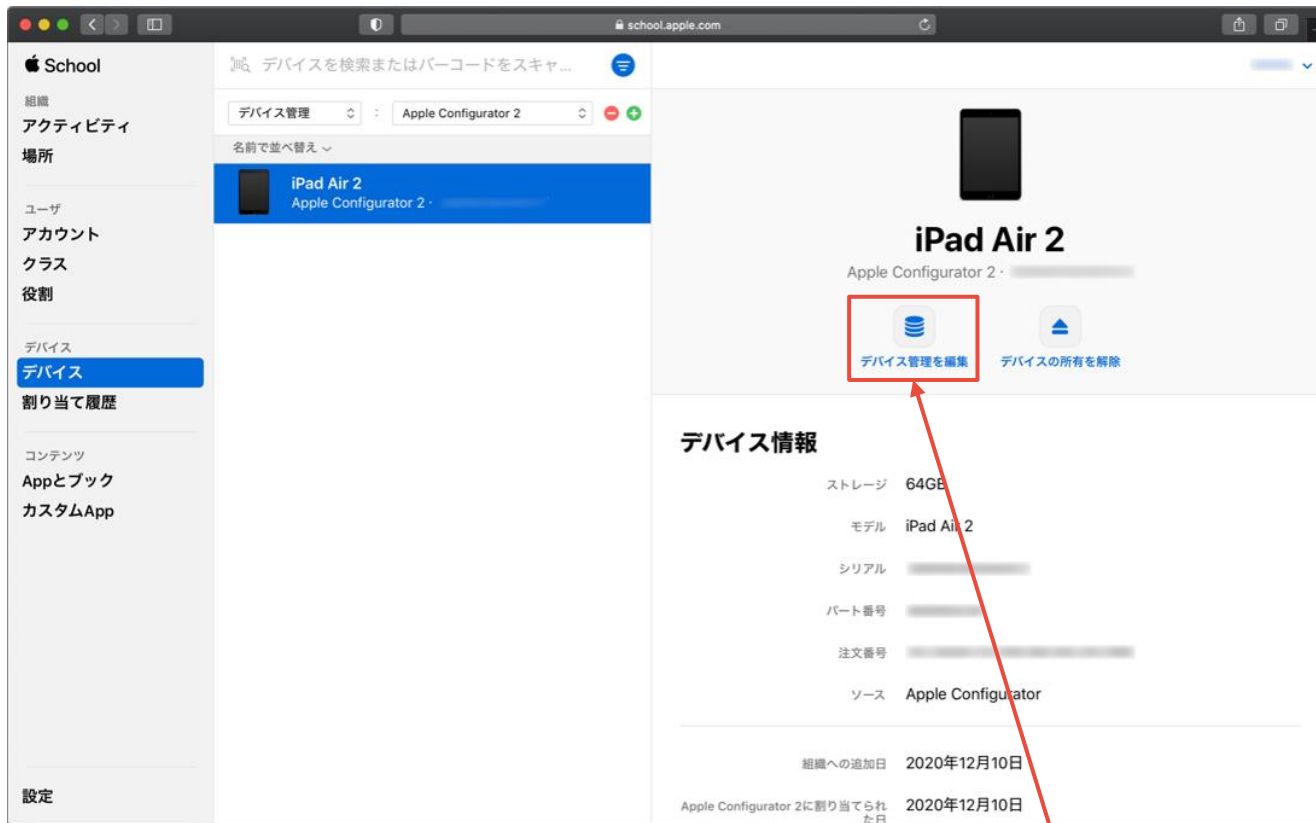
- ASMのMDMサーバの一覧に「Apple Configurator 2によって追加されたデバイス」というサーバ（グループ）に、前項12で初期化した端末が登録されます。

- ここに端末が割り当たっている間は、仮ADEのようなイメージです。端末を再度、初期化（リセット）してもMDMへ再登録はされません。

→デバイスを選択して、MDMサーバに割り当てを行います。

ABM (ASM) にてMDMへ割当て直し(2/4)

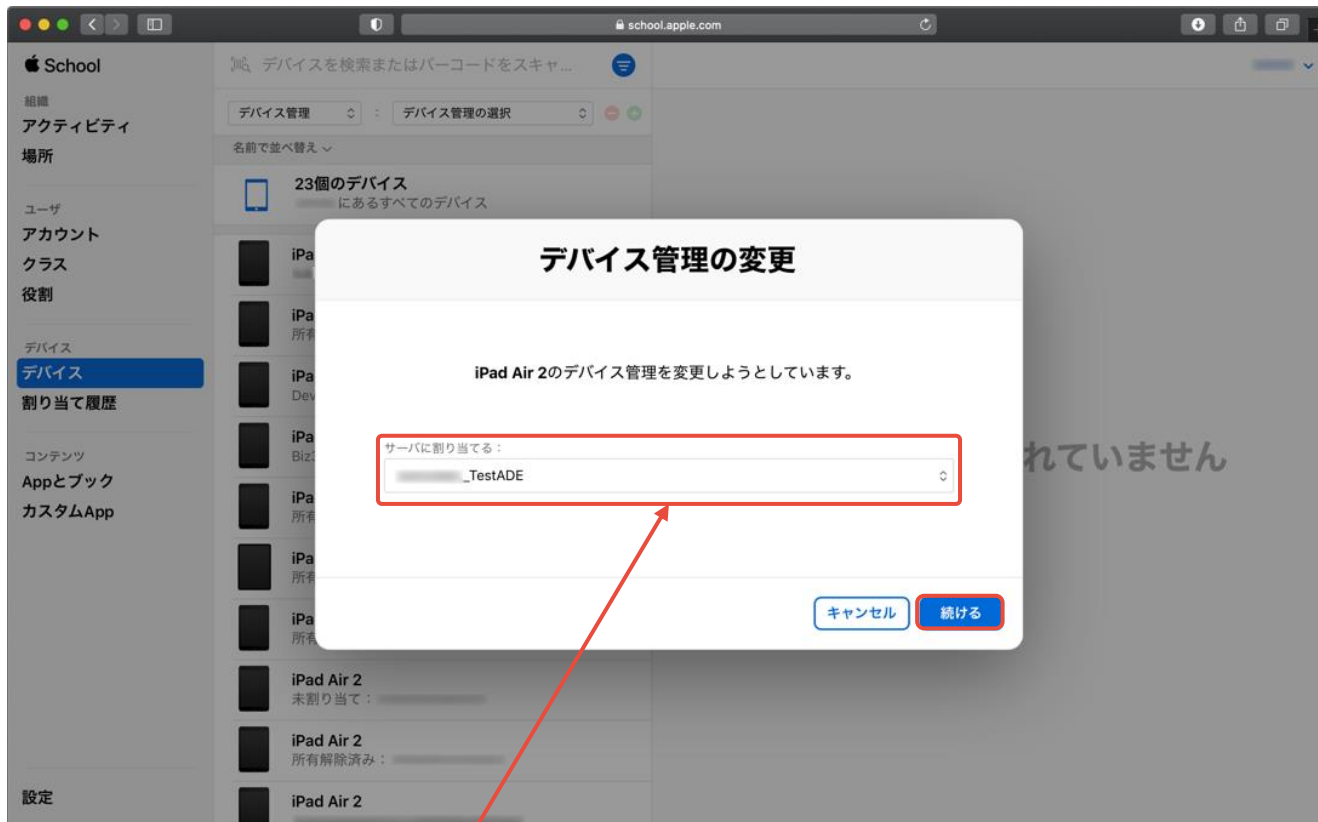
【ASMの場合】



2

デバイス管理の編集を
クリックします。

ABM (ASM) にてMDMへ割当て直し(3/4)



3 登録するMDMサーバーを選択します。

あらかじめ「新しいMDMサーバを追加」でPEMファイルの登録とMDMサーバーへのトークン登録などの初期設定を行っておく必要があります。
※スライド「作業フロー」の吹き出しを参照してください。

ABM (ASM) にてMDMへ割当て直し(4/4)

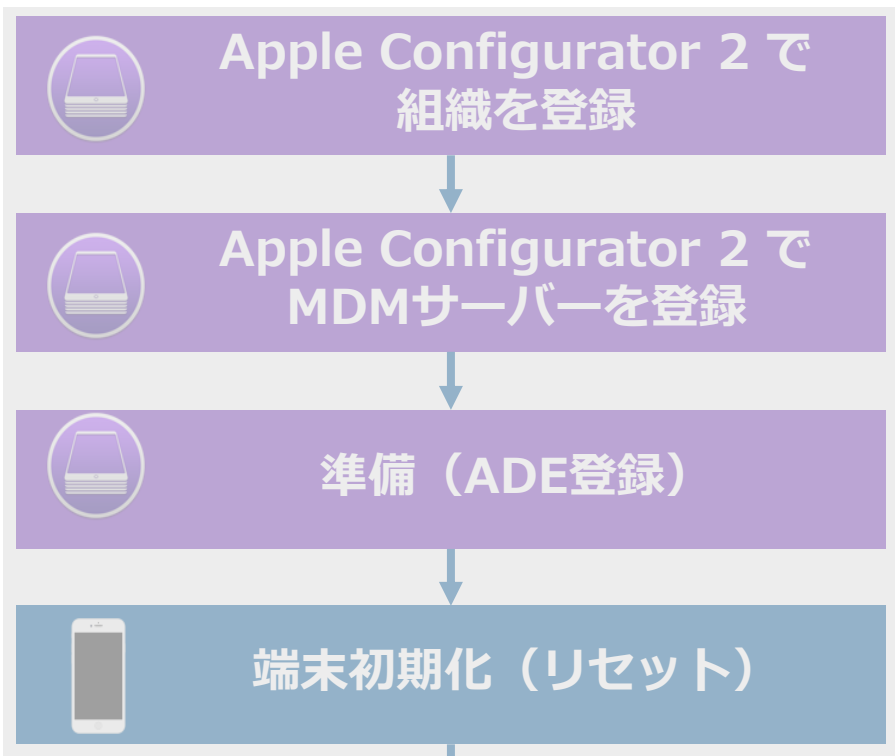
The screenshot displays the Apple School Management interface. On the left, a sidebar menu includes '組織', 'アクティビティ', '場所', 'ユーザ', 'アカウント', 'クラス', '役割', 'デバイス', '割り当て履歴', 'コンテンツ', 'Appとブック', 'カスタムApp', and '設定'. The 'デバイス' section is selected, showing a list of 23 devices. One device, 'iPad Air 2' with the name 'OptimalBiz_TestADE', is highlighted in blue. The main content area shows the details for this device, including its name, model, storage, and assignment date. A red box highlights the device name 'OptimalBiz_TestADE' in the list, and a red arrow points from this box to a red circle containing the number '4' at the bottom of the page.

デバイス情報	
ストレージ	64GB
モデル	iPad Air 2
シリアル	[Redacted]
パート番号	[Redacted]
注文番号	[Redacted]
ソース	Apple Configurator
組織への追加日	2020年12月10日
OptimalBiz_TestADEに割り当てられた日	2020年12月10日

4

割り当て直した端末が指定したMDMサーバに割り当たっていることを確認します。

あらかじめMDMの初期設定は完了している前提です。
※APNS登録、 ADEトークン登録、 組織作成、 構成プロファイル設定、 アプリ配信設定など



1 ADEと同期します。

※場合によっては、トークン登録画面からの同期が必要なケースもあります。

KDDI Smart Mobile Safety Manager

OSを選択 | Android | **iOS** | Mac OS | Windows | Windows 10 Mobile | サービス

ios 設定

- 管理アプリの通信と動作
- 設定テンプレート
- 構成プロファイル >
- ADE ▾
 - ADEトークン登録
 - ADE定義プロファイル
 - ADE機器管理
- アプリケーション >
- インターネット >
- 便利機能 >
- 証明書管理 >

操作 ▾

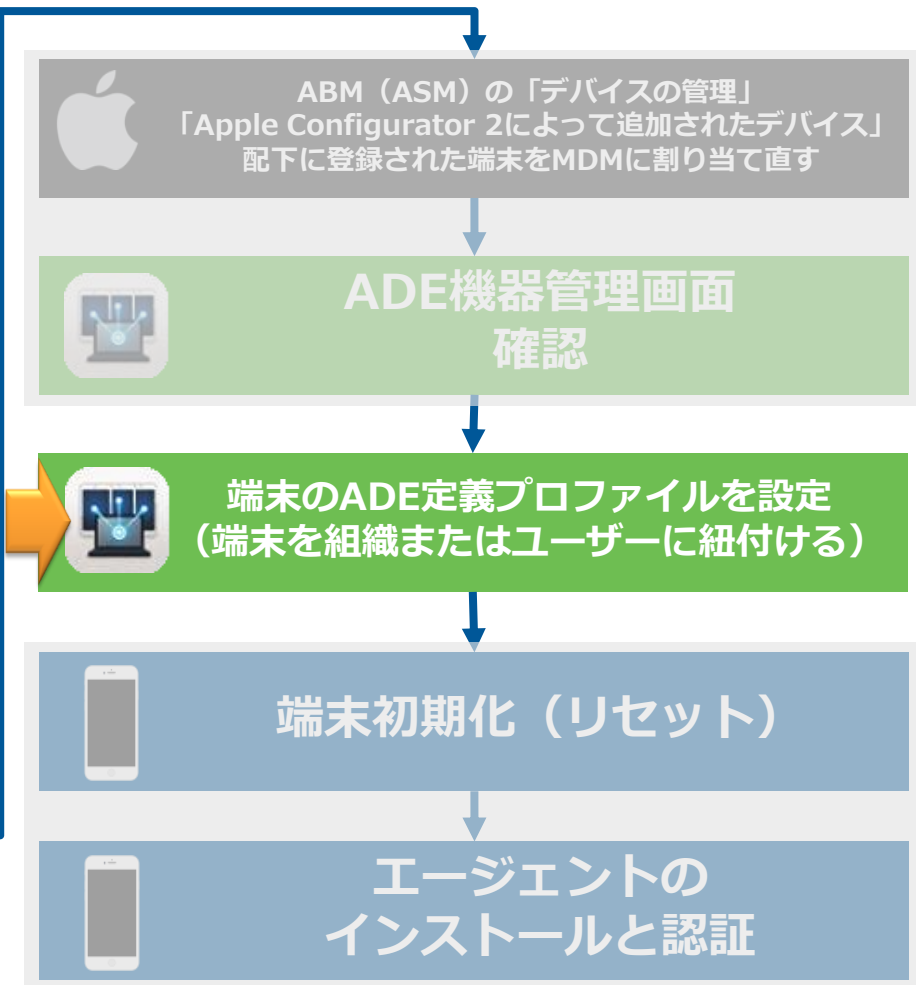
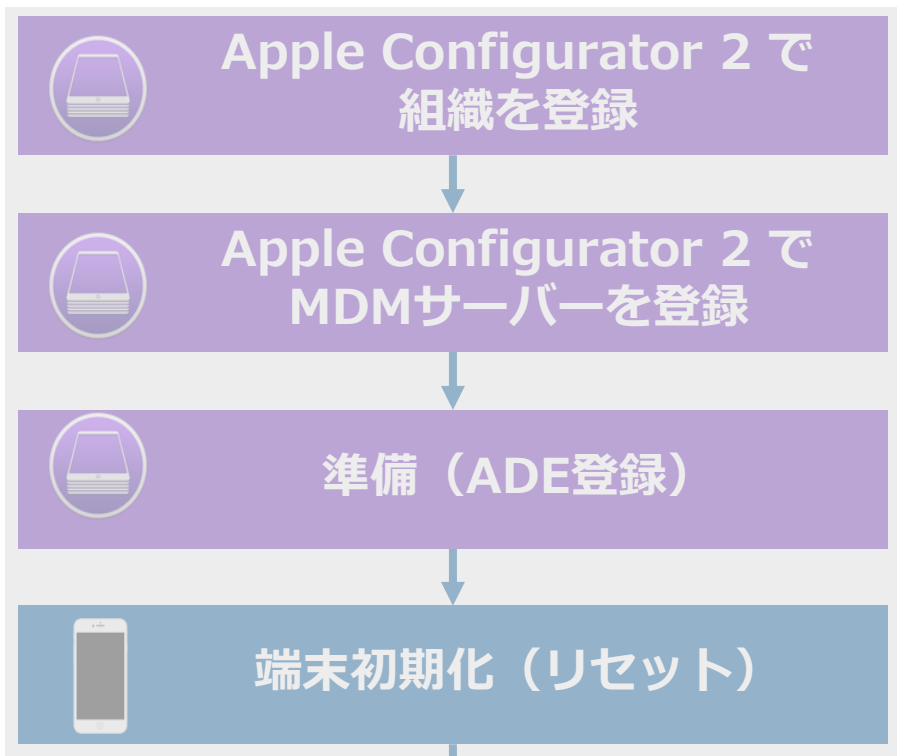
機器情報		登録情報		ADE情報					
シリアル番号	モデル	ユーザー	組織	ADE状態	プロファイル(適用済)	プロファイル	端末反映日時	ADE登録日時	ステータス

ADEと同期

2

ADEに割り当てた端末が表示されていることを確認します。

あらかじめMDMの初期設定は完了している前提です。
※APNS登録、ADEトークン登録、組織作成、構成プロファイル設定、アプリ配信設定など



6. 端末のADE定義プロフィールを設定 (端末を組織またはユーザーに紐付ける) (1/2)

The screenshot shows a web interface for managing devices. At the top, there are navigation tabs: 機器 (Device), ユーザー (User), 組織 (Organization), 設定 (Settings), and ログ (Log). The main content area is titled '機器' (Device) and contains a search bar with '機器名' (Device Name) and a search button. Below the search bar, there are search conditions and a table listing devices. The table has columns for '機器名', 'OS', '電話番号', 'ユーザー', and '組織'. A red arrow points from the instruction text below to the '組織' dropdown menu in the 'Management Information' form on the right. The form includes fields for '機器名', '所属' (Organization/User), '備考' (Remarks), 'MACアドレス (端末識別用)', '電話番号 (端末識別用)', and 'シリアル番号 (端末識別用)'. The '所属' dropdown is currently set to 'ユーザー' (User).

1 「メニュー＞機器＞機器の詳細＞管理情報の編集」画面にて、機器の所属を「組織」または「端末利用ユーザー」に紐付けます。

あらかじめ「ADE定義プロフィール」、「組織、またはユーザー」を作成し、「ADE定期プロフィール」を「組織、または機器」に割り当てておく必要があります。

6. 端末のADE定義プロフィールを設定 (端末を組織またはユーザーに紐付ける) (2/2)

2 ADEと同期します。

※場合によっては、トークン登録画面からの同期が必要なケースもあります。

KDDI Smart Mobile Safety Manager

OSを選択 | Android | **iOS** | Mac OS | Windows | Windows 10 Mobile | サービス

ios 設定

- 管理アプリの通信と動作
- 設定テンプレート
- 構成プロフィール >
- ADE** ▾
 - ADEトークン登録
 - ADE定義プロフィール
 - ADE機器管理**
- アプリケーション >
- インターネット >
- 便利機能 >
- 証明書管理 >

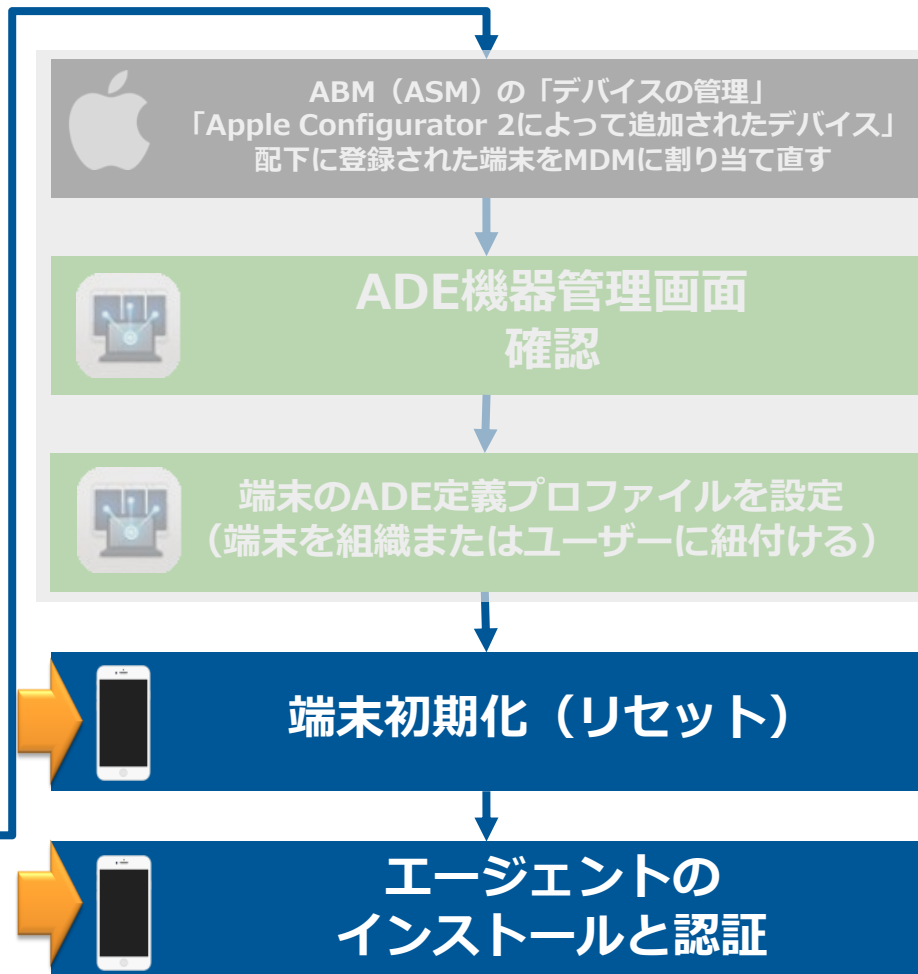
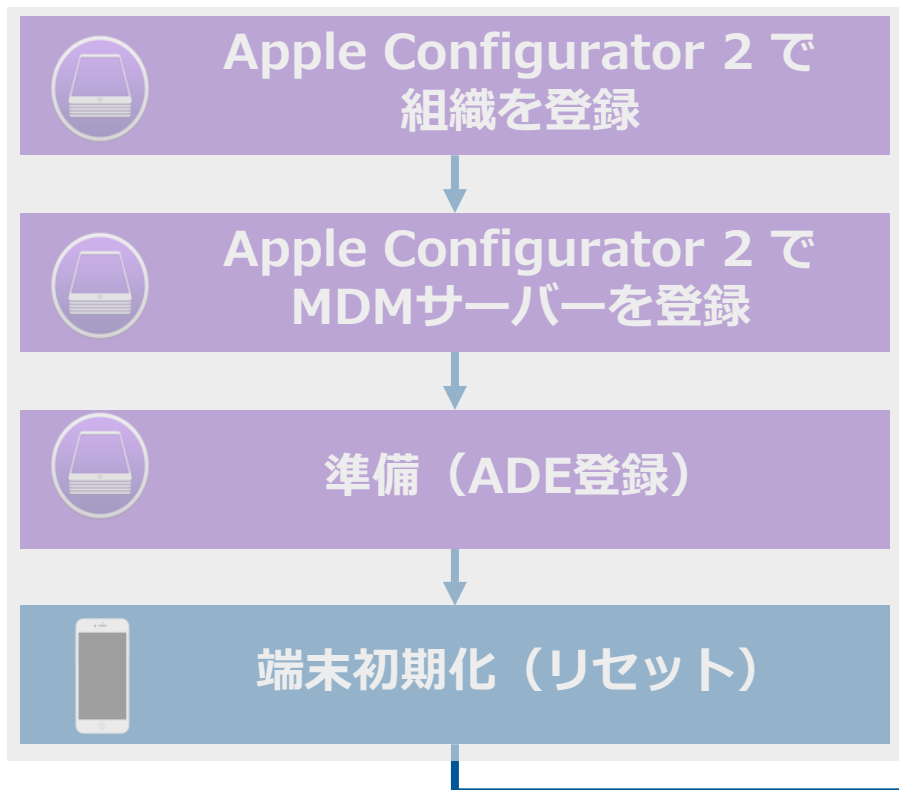
操作 ▾

機器情報		登録情報		ADE情報					
シリアル番号	モデル	ユーザー	組織	ADE状態	プロフィール(適用済)	プロフィール	端末反映日時	ADE登録日時	ステータス

ADEと同期

前頁で紐付けた「組織」または「端末利用ユーザー」が反映されていることを確認します。

あらかじめMDMの初期設定は完了している前提です。
※APNS登録、 ADEトークン登録、 組織作成、 構成プロファイル設定、 アプリ配信設定など



7. 端末初期化（リセット）（1/3）



1

端末を初期化（リセット）します。

※iTunesを使っでのリセットでも可能です。
※MDMへの再割り当てのために必要な手順となります。

7. 端末初期化（リセット）（2/3）

2 端末を初期化（リセット）します。



3 端末が起動した直後から、MDM認証済みの状態となっていることを確認します。



日付と時刻が「東京」になっていないことがあります。
時刻や「時間帯」の設定を確認します。

7. 端末初期化（リセット）（3/3）

4 「ADE機器管理」で「ADEと同期」を実行し、該当端末の「ADE状態」が“端末反映済”になっていることを確認します。

The screenshot shows the 'ADE機器管理' (ADE Device Management) section of the KDDI Smart Mobile Safety Manager. The interface includes a navigation bar with '機器' (Devices), 'ユーザー' (Users), '組織' (Organizations), '設定' (Settings), and 'ログ' (Logs). Below this, there's a filter bar for OS selection: 'OSを選択' (Select OS), 'Android', 'iOS', 'Mac OS', 'Windows', and 'Windows 10 Mobile'. The main content area is titled 'iOS 設定' (iOS Settings) and contains a table of device information. The table has columns for '機器情報' (Device Information), '登録情報' (Registration Information), and 'ADE情報' (ADE Information). The 'ADE情報' column is highlighted with a red box. A callout box explains the status terms: '適用済' (Applied) means the device is in an active state, and '端末反映済' (Terminal Reflective) means the device is active.

機器情報		登録情報		ADE情報		プロファイル(適用済)	プロファイル	端末反映日時	ADE登録日時	ステータス
シリアル番号	モデル	ユーザー	組織	ADE状態						
				適用済						
				適用済						

「適用済」 = 端末のアクティベーション（端末側のキッティング）が可能な状態
「端末反映済」 = アクティベーション済

8. エージェントのインストールと認証 (エージェントが不要な場合はスキップ)

1

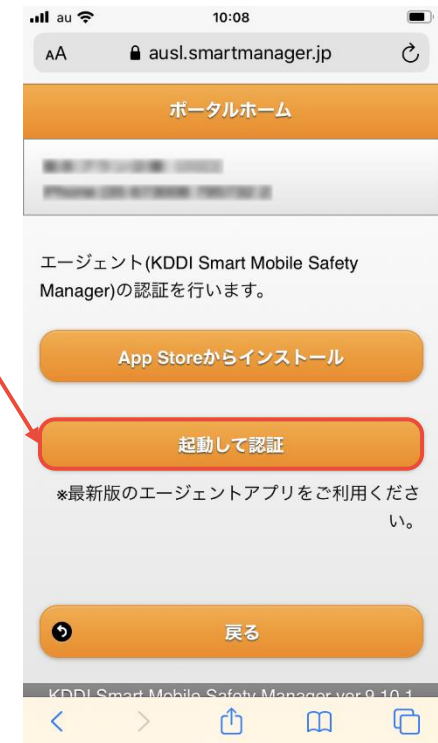
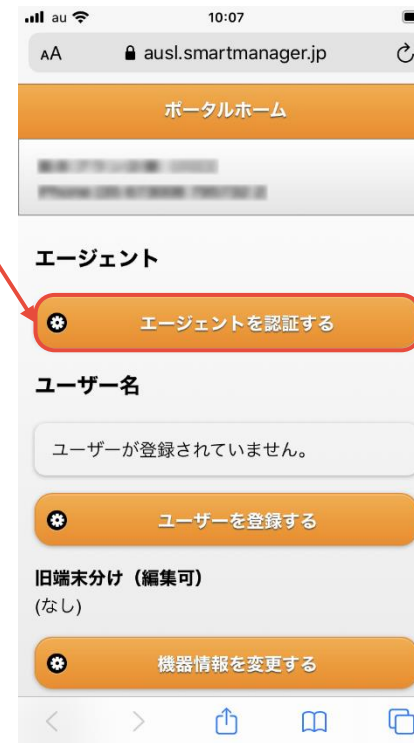
KDDI Smart Mobile Safety Managerエージェントをインストールします。



通常は、アプリケーション配信機能を使った配信を推奨します。

2

「ポータル」を起動し、KDDI Smart Mobile Safety Managerエージェントを認証します。



アプリケーション配信機能とAppConfig機能を利用した認証自動化をした場合は、この手順は不要です。

Tomorrow, Together

KDDI